

ひころ じゅんび
5.日頃から準備をしましょう

水害から身を守るには、日頃から水害に関心を持ち、万が一に備えて準備しておくことが大切です。

1 天気予報や気象情報に気をつけましょう。

天気予報に注意し、天気の移り変わりに気を付けましょう。



2 非常時に持ち出すものを準備しておきましょう。

慌てて準備を始めると、必要なものをうっかり忘れてたり、必要以上に時間がかかってしまいます。あらかじめ準備をし、家族で置き場所を確認しておきましょう。



3 側溝や雨水ますの上は定期的に掃除しておきましょう。

側溝や雨水ますにゴミや落葉が詰まっていると、水がのみこめず、浸水の原因になります。側溝や雨水ますの清掃にご協力ください。



4 家族やご近所で避難場所や避難経路の確認をしておきましょう。

避難所・避難場所はどこなのか、そこに安全に行くにはどう行けばいいのかを前もって確認し、地図に書き込んでおきましょう。



5 防災上の配慮を要する方への気配りをしましょう。

ご自分の家族や住まいだけでなく、地域全体にも目を向けましょう。特に一人暮らしの高齢者や障がい者、子ども等、防災上の配慮を要する方には、日頃から気配りが必要です。



6 家庭でできる簡易水防を活用しましょう。

浸水深が浅いときは、家庭にあるものを使って、水の侵入を減少させることができます。大きめのゴミ袋やポリタンク等に水を入れて、水の侵入口となるところに並べます。



自分でできる自宅の浸水対策

雨水ますや道路側溝の清掃

・家の近くの雨水ます等の点検・清掃にご協力をお願いします。

雨水ます等に泥や落ち葉、ゴミが詰まると、浸水の原因になります。みなさんのご協力をお願いします。

道路の側溝や雨水ますの確認をしてください。

側溝や雨水ますの集水口に落ち葉などが、詰まっていないか確認しましょう。詰まっていたら取り除きましょう。

物を置かないでください。

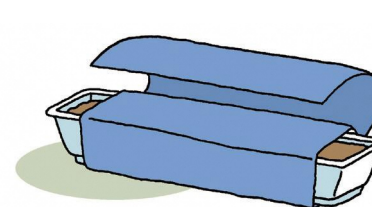
側溝や雨水ますの上に物を置かないようにしましょう。植木など置いていませんか？



土のうなどによる止水方法例

浸水が浅い場合には浸水を防ぐ用具(土のうなど)を置くことが有効です。日頃から対策に必要なものを準備しておきましょう。

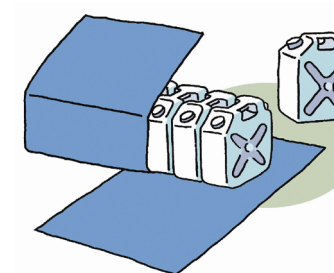
浸水を止める用具例 身近にあるもので簡単に止水が出来ます。



プランターとレジャーシート
の組合せ



水を入れたビニール袋と
ダンボール箱の組合せ



ポリタンクとレジャーシート
の組合せ



長めの板と土のうの組合せ



水のうで排水溝をふさぐ

ビニール袋を水で満たした「水のう」でトイレやお風呂の排水口を一時的にふさぐことで、下水の逆流を防ぎます。